

基本目標

東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて

[復興推進の基本方向]

復興の目指す姿

いのちを守り
海と大地と共に生きる
ふるさと岩手・三陸の創造

基本的な考え方と取組方向

【重視する視点】

- (1) 参画：若者・女性などの参画による地域づくりを促進します
- (2) 交流：人やモノの交流の活発化による創造的な地域づくりを促進します
- (3) 連携：多様な主体が連携し、復興などの取組みを推進します

【「より良い復興～4本の柱～」と取組方向】

- (1) 安全の確保 (2) 暮らしの再建
- (3) なりわいの再生 (4) 未来のための伝承・発信

復興の取組

こころのケア

「誰一人として取り残さない」という理念のもと、被災された方々の心身の健康を守るため、きめ細い保健活動やこころのケアなどを推進します。

県が岩手医科大学に委託し設置している「岩手県こころのケアセンター」では、大船渡・釜石・宮古・久慈の地域センターと連携しながら、専門的なケアを行っています。また、専門職による相談対応のほか、職場への支援を行うなど、幅広いサポートも実施。傾聴ボランティアをはじめとした地域の人材育成にも力を入れ、被災された方々に寄り添い、支える活動を展開しています。

事実・教訓の伝承

震災の事実や被災された方のこれまでの経験を踏まえた教訓を確実に伝承し、その教訓を防災文化の中で培っていきます。

県では、日本を代表する震災津波学習拠点として「東日本大震災津波伝承館」(愛称「いわてTSUNAMI(つなみ)メモリアル」)を8~9月ごろに開館します。館内には、三陸の災害の歴史、津波の事実、震災から得た教訓などを学ぶことができる5つの展示ゾーンを設置。震災の事実を踏まえた教訓を世界に発信し、未来に伝承していきます。

[政策推進の基本方向]

- | | | |
|--|--|--|
| <p>1 健康・余暇</p> <p>健康寿命が長く、生き生きと暮らすことができ、また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手</p> | <p>一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会を実現していくため、10の政策分野を設定。一人ひとりの幸福を守り育てる取組みを展開していきます。</p> | <p>2 家族・子育て</p> <p>家族の形に応じたつながりや支え合いが生まれ、また、安心して子育てをすることができる岩手</p> |
| <p>3 教育</p> <p>学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばし、自分の夢を実現できる岩手</p> | <p>4 居住環境・コミュニティ</p> <p>不便を感じないで日常生活を送ることができ、また、人や地域の結び付きの中で、助け合って暮らすことができる岩手</p> | <p>5 安全</p> <p>災害をはじめとしたさまざまなリスクへの備えがあり、事故や犯罪が少なく、安全で、安心を実感することができる岩手</p> |
| <p>7 歴史・文化</p> <p>豊かな歴史や文化を受け継ぎ、愛着や誇りを育んでいる岩手</p> | <p>8 自然環境</p> <p>一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手</p> | <p>6 仕事・収入</p> <p>農林水産業やものづくり産業などの活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、また、やりがいと生活を支える所得が得られる仕事につくことができる岩手</p> |
| | <p>9 社会基盤</p> <p>防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤が整っている岩手</p> | <p>10 参画</p> <p>男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などの活躍、幅広い市民活動や県民運動など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手</p> |

いわて幸せ大作戦がスタートします
「いわて県民計画(2019~2028)」始動!

写真は、岩手にあるさまざまな「幸福」に関する写真を募集した「いわて幸福フォトコンテスト」への応募作品。



県では、1964年から現在まで切れ目なく「総合計画」を策定し、長期的な展望のもとで県政を推進してきました。「11」では、今年度からの10年間を対象とする「いわて県民計画(2019~2028)」と「11」の計画のもとスタートダッシュする今年度の予算を紹介いたします。

Q1 総合計画にはどんな役割があるの?>
総合計画は、県の政策推進の方向性や具体的な取組を示すものです。また、「11」の計画は行政だけでなく、県民の皆さん、企業、NPOなどのあらゆる主体が岩手県の将来像を共有し、みんなで行動するための「ミッション」なるものです。

Q2 どんな計画なの?>
テーマは「幸福」です。「お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」の実現に向け、「いわて幸せ大作戦」を合言葉に取り組みを進めていきます。

Q3 どんなアンケートなの?>
県民の皆さんへのアンケート調査や幸福についてのワークショップなどを開催し、皆さんの「幸福」に対する考え方を伺いながら、岩手の将来像を一緒に描いてきました。

共働き家庭の増加に伴って、各地で待機児童が問題となっていますが、その原因の一つが保育士の不足です。「岩手県保育士・保育所支援センター」では、気軽に情報交換ができる「ほいくしカフェ」や再就職支援研修などを実施しています。これは、保育士の資格を持つものの保育士として働いていない方を対象に、仕事への復帰を後押しする環境づくりや再就職先とのマッチングなどを行うもの。仕事に対する不安を解消しながら、保育士としての就職を支援する取り組みを進めています。

県では、それぞれの家族の形に応じたつながりや支え合いによって良好な家族関係を実感でき、安心して出産や子育てをすることができる環境づくりを進めています。安全・安心な出産環境の整備や保育・医療サービスの充実のほか、地域ぐるみの子育て支援や、働き方改革を推進し、仕事と生活を両立できる職場づくりなどに取り組んでいきます。



最近の保育園事情など気軽に情報交換ができる「ほいくしカフェ」。

**待機児童を
解消するために、
再就職を希望する
保育士さんを後押し!**

家族・
子育て



「潜在保育士再就職支援研修会」の様子。

沿岸地域では、仮設住宅などで一人暮らしをする高齢者や復興事業に携わる単身赴任者を中心に惣菜弁当を利用する人が多く、偏った食生活への対策が求められていました。

そこで大船渡保健所では、2016年度から「減塩弁当コンテスト」を開催。減塩対策に意欲的な地元のスーパー(株)マイヤと協働して、最優秀賞の弁当を商品化し、毎月28日の「減塩の日」に店頭販売を行っています。「最近健康を気遣うお客さまが多く、とても好評です」と、マイヤの伊藤清さん。今後、大船渡保健所では3年間のコンテストを通じて蓄積された減塩レシピや調理の工夫を広く提供し、食生活の改善につなげていく予定です。

県では、こうした生活習慣の改善をはじめ、必要な医療を受けることができる体制の充実や共に支え合う福祉コミュニティづくりに取り組んでいくほか、生涯を通して学びや文化芸術・スポーツに親しめる環境をつくっていきます。



大船渡保健所の職員と(株)マイヤの伊藤清さん(左から2番目)。

**健やかに生き生きと暮らせるように、
生活習慣の改善から健康づくりを支援。**

健康・
余暇



「減塩弁当コンテスト」の審査会の様子。

お互いに幸福を守り育てる 岩手を実現しましょう。

児童に講演する
福田正博さん。



教育

**多くの学びや
さまざまな体験を通して、
子どもたちの夢や可能性を
伸ばす取り組みを。**



福田さんの話を聞いて、児童からたくさんの質問が出ました。

県では、2016年度から子どもたちの心身を育む機会として、オリンピック・パラリンピアンなどと交流する事業を進めています。盛岡市立仙北小学校では、児童一人ひとりが夢を持ち、実現に向かって行動する「すずかけの夢ドリームプロジェクト」に取り組んでおり、その一環としてサッカー元日本代表の福田正博さんを招きました。

福田さんは「夢とチャレンジ」をテーマに講演した後、児童たちとサッカーを通して交流。「友だちへの思いやりや言葉を掛けることを大切にしたい」「物事を前向きに捉えることが大事だと学んだ」など、児童たちは大いに刺激をもらった様子。夢や目標を持って努力することの大切さを、改めて感じていました。

こうした事業をはじめ、県では学校教育の充実や国際交流、文化・スポーツ、産業など、さまざまな分野での人づくりを進め、子どもたちの心豊かな学びや生きる力の高まりを実感できる取り組みを展開していきます。

「いわて水産アカデミー」
の開講式に臨む研修生の
皆さん。



仕事・
収入

**復興の力になる
人材育成に取り組み、
沿岸の産業に新たな
活気と安定した仕事を。**

震災によって甚大な被害を受けた水産業は、担い手不足が大きな課題です。県では、今年度から実践的な漁業の知識を身に付けた人材を養成する「いわて水産アカデミー」を開講しました。研修生たちは、1年間で漁業の技術を習得するとともに、関係法令、6次産業化、情報通信技術を活用した漁業などを学びます。

また、水産業が復興している姿を広く全国に発信し、小売流通業・外食産業などのバイヤーに優れた加工品を売り込む「復興シーフードショー IWATE」も開催。新たな商品開発や販路拡大につながる機会を積極的に設け、水産業に携わる皆さんをバックアップしています。

県では、岩手の基幹産業である農林水産業をはじめ、地域経済を支える中小企業、自動車・半導体関連を中心としたものづくり産業など、産業政策を総合的に展開しながら、一人ひとりの能力を発揮できる雇用を確保する取り組みを進めていきます。

2018年度の「復興シーフードショーIWATE」の様子。



「新しい時代を切り拓くプロジェクト」

- ILCプロジェクト
- 北上川バレープロジェクト
- 三陸防災復興ゾーンプロジェクト
- 北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト
- 活力ある小集落実現プロジェクト
- 農林水産業高度化推進プロジェクト
- 健幸(けんこう)づくりプロジェクト
- 学びの改革プロジェクト
- 文化・スポーツレガシープロジェクト
- 水素利活用推進プロジェクト
- 人交(じんこう)密度向上プロジェクト

10年後の将来像の実現をより確かなものとするため、岩手らしさを生かした新たな価値やサービスの創造などの先導的な取り組みを進める11の「新しい時代を切り拓くプロジェクト」を掲げました。その中から4つの取り組みをご紹介します。

ILCプロジェクト



知と技術が集積された国際研究拠点の実現

国際リニアコライダー(ILC)の実現により、世界トップレベルの頭脳や最先端の技術、高度な人材が集積されることから、イノベーションを創出する環境の整備などを進めます。

北上川バレープロジェクト

働きやすく、暮らしやすい、21世紀にふさわしい新しい時代を切り拓く先行モデルとなるゾーンの創造
 県央・県南の振興圏にまたがる北上川流域において自動車や半導体関連産業を中心とした産業集積を進め、新たな雇用を創出します。また、両振興圏の第4次産業革命技術のあらゆる産業分野、生活分野への導入などを進めます。



北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト



あらゆる世代が生き生きと暮らし、持続的に発展する先進的なゾーンの創造

北いわての豊かな地域資源の活用や高速交通網の進展を生かし、地域の特徴的な産業の振興を図ります。また、交流人口の拡大、再生可能エネルギー資源の利用促進などにも取り組みます。

三陸防災復興ゾーンプロジェクト

岩手と国内外をつなぐ海側の結節点として持続的に発展するゾーンの創造

震災復興の取り組みにより大きく進展したまちづくりや交通ネットワーク、港湾機能などを生かした地域産業の振興を図ります。また、三陸防災復興プロジェクト2019などをきっかけとして生み出される効果を持続し、三陸地域の多様な魅力を発信して国内外との交流を進めます。



新時代スタートダッシュ予算

今年度は、「いわて県民計画(2019~2028)」のもと新たな目標に向かう始まりの年。復興に最優先で取り組みながら、計画に掲げた将来像の実現に向けてさまざまな事業を進めていきます。

健康・余暇

- ・周産期医療体制の整備
- ・引きこもりや生活困窮者の自立支援
- ・地域の保健医療体制の充実
- ・福祉コミュニティづくりに向けた取り組み
- ・文化芸術・スポーツ活動や生涯学習の充実

家族・子育て

- ・結婚、出産、子育ての支援
- ・地域全体で子どもたちを育む環境づくり
- ・仕事と生活を両立できる環境づくり
- ・健全で、自立した青少年の育成
- ・動物のいのちを大切に作る社会づくり

教育

- ・児童生徒の知・徳・体を育む取り組み
- ・グローバル化や第4次産業革命技術の進展に対応できる能力の育成
- ・ものづくり産業や農林水産業など地域に貢献する人材の育成

居住環境・コミュニティ

- ・地域の暮らしを支える公共交通の確保
- ・地域コミュニティの活性化
- ・岩手への移住・定住の促進
- ・多文化共生の地域づくり
- ・文化芸術、スポーツを生かした地域づくり

安全

- ・自主防災組織の組織化・活性化などの防災体制の構築
- ・特殊詐欺被害の予防や交通安全など安全・安心に暮らせるまちづくり
- ・食の安全・安心の確保
- ・感染症の発生やまん延の防止対策の推進

仕事・収入

- ・地域経済を支える中小企業の振興
- ・ものづくり産業の一層の集積
- ・地域資源を生かした産業の魅力向上
- ・観光産業の振興による地域経済活性化
- ・農林水産業の持続的な発展

歴史・文化

- ・御所野遺跡の世界遺産への新規登録に向けた取り組み
- ・平泉の文化遺産を総合的に案内するガイダンス施設の整備
- ・伝統芸能が受け継がれる環境づくり

自然環境

- ・希少野生動物の保護など、多様で優れた環境を守り、次世代に引き継ぐ取り組み
- ・循環型社会の形成に向けた取り組み
- ・再生可能エネルギーの導入促進など地球温暖化防止の取り組み

社会基盤

- ・ICTやデータを利活用できる人材の育成
- ・洪水・土砂災害の防止・軽減を図るための取り組み
- ・社会資本を良好に維持管理し次世代に引き継ぐための取り組み

参画

- ・性別や年齢、障がいの有無にかかわらず活躍できる社会づくり
- ・幅広い市民活動や県民運動を促進するためのNPOの運営基盤の強化
- ・多様な主体の参画・連携・協働の推進

【予算のポイント】

- 三陸防災復興プロジェクト2019やラグビーワールドカップ2019™釜石開催など、東日本大震災津波の教訓や復興の姿を発信する取り組みを進めます。
- 国際リニアコライダー(ILC)をはじめとする「新しい時代を切り拓くプロジェクト」(9ページ参照)を戦略的、積極的に推進します。

【予算の規模】

- 予算の総額は9,355億円。震災分は復旧・復興事業が進んだことにより、4年連続で減少。
- 2018年度の2月補正予算と合わせて経済の活性化を進めます。

